

**CSA 2012年 ワーキング・スタディ・ツアー  
参加者アンケート**

# CSA 2012年ワーキング・スタディー・ツアー・アンケート

橋 本 裕 信（連合・総合組織局連帯活動局）

## 1. 参加して感じたことは何ですか

### 1) 良かったこと

恥ずかしながら、今回のツアーに参加するまで、CSAの活動にどういった組織が参加し、現地に対してどれだけの支援を行っているか、ホームページ上で拝見してはいたものの、あまり実感を伴っておりませんでした。今回、実際に各国を訪問し、情報を経験に変えることができたのが一番の成果でした。

### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

現地の皆さんや小学校の子どもたちからの熱烈な歓迎に大変驚かされました。予定外の宴席のため、設立された学校施設の隅々まで視察することはできませんでしたが、皆さんの喜びの大きさがCSAの活動の意義を雄弁に語っていたように感じます。

### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

支援を受けて当然というのではなく、誰もが心からの感謝とともに、大きな評価を示していたように感じました。CSAの支援に全力で応えようと努力して下さっているのもよく見えました。

### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

従来の予定通り回ることができなかったのは残念でしたが、それも現地の皆さんの温かな歓迎あってのことであり、大変意義のある視察だったと思います。視察スケジュールそのものについては、移動を含めた時間配分等、参加者にとっても無理なく行動できるよう十分な配慮がなされていたと思います。

## 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい。

### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

繰り返しになりますが、現地の皆さんの歓迎ぶりと感謝が、活動の意義を十全に語ってくれていたと思います。

一方、物資が活用されているのは疑うべくもないのですが、「最大限に」活用されているかと問われれば、いまだ現地側の受け入れや仕分け、流通の態勢が完全にはシステム化されていないようにも感じ、そこはもったいなく思います。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

今回視察した小学校には、いわゆる図書室に相当する部屋はなかったように見受けられました。卒業後に中学校への進学を考える生徒が増えるのであれば、これまで以上に識字率の向上や知識が必要になるかと思います。また、いくつかの訪問先でも要望がありましたが、中学校支援について検討が必要な時期が来ていると思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

困難を承知で申し上げれば、やはりCSA現地支部の設立・拡充が必須だと思います。リアルタイムでニーズを把握し、手配を行い、活動体制を整えるには、現地である程度自由に、かつ定常的に活動できるスタッフの存在が不可欠だと考えます。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

続けるべきと考えます。特に、これからの活動を担っていく青年層には特に積極的に参加し、いろいろなことを感じてほしいと思います。

同時に、今回の参加メンバーについても、同じ時間を共有した仲間として、今後とともに活動していけたらと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

チームとしては、衣類の保管倉庫で皆さんの出身単組からの物資を探していた時を除き、異なる組織からの参加であることはほとんど意識せず、一丸となって行動していたように感じます。一方で、連合本部の勤務では各構成組織の本部の方以外と交流する機会がほとんどないため、現場の貴重な話をいろいろ聞くことができ、充実した時間でした。

3) チームの運営の仕方はいかがですか。

事務的な部分としては、事前に通訳の方との連携をとれていればと悔やんだ場面が何度かありました。同様に、折り紙等のレクリエーションでは団員も習熟していないケースがありますので、情報・技術の共有化は必須であると感じました。

## 石川 浩 規 (UIゼンセン同盟・とりせん労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか。

#### 1) 良かったこと

中古衣料を送付しただけで終わっていた活動でしたが、ツアーに参加した事でどの様に現地に渡り保管されラオス・タイの恵まれない方々に送られているのかを自らの目で確認できたこと。実際に現地の方々とふれ合う事で、CSAの活動の重要性と「国」や「民族」を超えた「人」としての「絆」を確認できました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

ラオス・タイとも貧富の差を強く感じました。ラオスにおいては発展途上国としての勢いが随所に感じられました。また、訪問した小学校で行った「綱引き」での子供達の本当に楽しそうな笑顔や声援は心に残りました。サンティパープ高校寮卒業生(現大学生)との交流では、自分のやりたい事に対して真摯に学んでいる気持ちが伝わり、ラオスの明るい未来を感じさせてくれました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

どこに訪問しても感謝され、現地にとってCSAの活動が果たしている役割を知ることができました。また、ただ送るだけではなく実際に訪問し交流を持つことで「一方通行」ではない活動であることが評価されていると感じました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

内容の濃いスケジュールであったと思います。各省庁で副大臣より国の現状等を伺えたのは貴重な経験でしたし、日本大使館で書記官より国の状況や方向性を教えて頂いた事はとても勉強になりました。倉庫や小学校、高校寮など、ただ訪問するだけでなく現地の方々と多くのコミュニケーションを取る機会があったことで今後の支援活動に活かせるツアーであったと思います。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい。

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

現地にとって的を得た活動を行っていると思います。また与えるだけではなく、自分達でも行動する意識を持たせながら支援する姿勢が良いと思います。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

衣料支援、学校建設など従来の活動も継続しつつ、教科書不足などの現地の要望にもある程度対応する必要があるかと思います。また学生の留学支援が可能であれば素晴らしい事だと思います。医療支援についても病院建設とまではいかないまでも何かしら行えれば良いのではないかと感じました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

CSAとして各産別へのアピール、情報提供が今以上に必要ではないでしょうか。HPの充実や連合を通じたメールマガジンの送信なども良いのかと。また今回のツアーに参加させて頂いた自分自身もCSAの活動を宣伝する役割を担う必要があると感じています。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

百聞は一見にしかず、自分自身で現地の状況を確認、交流する事は今後の支援活動において必要な事だと思います。是非幅広く参加者を募り、多くの方にラオス・タイ等におけるCSAの役割を認識してもらいたいです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

普段ではなかなか交流する事が無い他産別・組織の皆さんと約1週間のツアーができた事はブライスレスです。所属組織は違えど、ラオスに対する気持ちは皆同じであると確信しています。ムードメーカーの山崎さんをはじめ、素晴らしいメンバーに恵まれ感謝しています。コプチャイ ライライ！

3) チームの運営の仕方はいかがですか

各自役割を持ち意識を持って訪問する運営は非常に良いと思います。団長・記録・撮影を訪問先によって分担する事で、自分自身チームでの責任を感じることができました。

**西 嶋 章 乃 (UIゼンセン同盟・ホークスタウンユニオン)**

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

現地の気候が暖かいだろうと一般的なことしかわからず、中古衣類を回収する際もセーターなどが必要なのだろうかと不安に思っていたが、ラオス北部地域の寒さを直接肌で感じて冬物の必要性を感じることができた。自分達が送ったものを発見・活用されている現実を見ることができて、今後の自分の組合での活動をもっと発展させたいと思った。タイ・ラオスの日本との関係に対する姿勢が見れた。同行のメンバーが良すぎた！！

2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

小学校での子供たちの笑顔!! 日本の子供ってこんなに笑ってたかな?? ラオスと何が違うのだろう……。と思った。テレビやゲームなどの文明の利器が増えたとしても人間としての笑顔の素晴らしさを無くしてしまってはもったいないと思った。

CSA等に対する深い感謝と訪問への歓迎の気持ち。

日本という国に対する親日度。

CSAの方針である自立へ向けての思いもわかっていて、ある程度は助けて欲しいけどそれ以降は自分達でやるという気持ちを聞けたので、両者として良い関係だと思った。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

ものを渡すだけではなく、人と人との交流も含め感謝の思いを感じる歓迎のされ方だった。CSAの活動の継続と発展を切に願っているように感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

日程は6泊7日と色々な視察をするには程良い期間だったと思う。

ラオスでは首都のヴィエンチャンを離れ、北部にも行くことができた。

前回の感想で行けなかったという感想を見たので、参加者の声がどんどん活かされているのだなということを感じました。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

多方面での人々に感謝されており、意義のある活動だと感じましたし、訪問した小学校の校長先生の発言とCSAの渡辺事務局長から聞いていた内容の本質が同じで、日頃からぶれない活動をされているのだと感じた。CSAだけではないけれどもこのような活動が積み重なって、ラオス・タイが親日的で友好関係続いているのだと感じた。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

現状の活動を維持し、学校建設が小学校だけでいいのかその先の状況も見据えて教育省などと議論をして欲しい。

国内での認知度を高め、活動の啓発になるように今後も私達参加者を有意義に使うべきだと思う。(各団体での広報誌に感想を投稿させるなど)

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

人間他人毎には、所詮他人毎。今回の体験を皆様に伝える機会があり、話をしたら、大型労働組合が活動参加しようとして頂いた。実際の体験を幅広く発表できる工夫が必要だと思います。ツアー中だけではなく、今後各々がどのようにこの経験を活かせるかを考える時間・それぞれで発表し、意見交換できる場が欲しかった。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

全く同じ形とは限らないとは思いますが、続けたほうがよいと思います。現地環境に触れたことが有意義でしたし、寝食を共にして得た人間関係を築けると思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

組織の枠などを考えることはなく、上部団体の違いも感じずただ単にCSAの仲間だと思っていた。他労組の取り組みや数々の活動事例の話も聞け、当労組の今後の活動を考える機会になった。今後も話ができる仲間が出来た。

自分の職場に労働組合があってよかったと思った。そして、小さな労組にも関わらずこのような貴重な体験を与えて頂いたCSAと上部団体のUIゼンセンの皆様へ深い感謝の念を感じた。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

各個人それぞれが役割をもつことで、協力しあい、連帯感もあり、スムーズな流れだったと思う。大人の旅ということもあり、個性的なキャラクターでしたが、目標が同じですごく楽しく過ごすことができた。

**西村正雄 (UIゼンセン同盟・大阪ガス・カスタマーリレーションズ労働組合)**

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

今まで中古衣料のカンパを単組で取り組んでいましたが、本当に届いているか実感がわきませんでした。今回、訪問して確認したことにより、よりCSAの活動の中身は良く見えて、ラオスやタイの思いが身近になりました。是非とも今後も継続をお願いしたいと思います。

2) 訪問先で特に印象を受けたことは何ですか

発展途上国である、ラオスの方々が、生き生きとした目で頑張っておられたこと、常に前向きな考えを持っていたことに強く感銘を受けました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

CSAの活動が現地に受け入れられていることは、事務局長の渡邊さまを見れば一目瞭然でした。本当にCSAに感謝されていると思われました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

今回は、首都ビエンチャンに滞在期間が長かったです。ルアンパバンは1日でしたので、あと1日はあれば良かったと思います。日程をあと1日増やすことができれば、なお良いと思われます。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

素晴らしい活動だと思います。日本でのアピールも、もっと行い、より大きな支援を求める必要があるのではないかと思います。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

メディアでも率先してアピールをして、活動の幅を広げてはいかがでしょうか？

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だとおもいますか。

お互いのことを理解する為に、コミュニケーションの度合いを強くする必要があります。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

絶対継続して欲しいです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

沢山ありましたが、最初の頃に時間の関係で懇親が深めることができませんでしたので、今後は前夜に1泊でもして懇親を深めることができれば、もっと得るものがあると思います。



## 村山長稔（基幹労連・JFEスチール知多労組）

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

正直私は今回のCSAのツアー参加要請があるまで名前を知りませんでした。基幹労連の「ふれ愛カンパ」は毎年行っていますが使途であるCSAの活動について確認できたことは大変よかったと思います。衣類支援は行っていませんが今後のカンパ活動を頑張っていきたいと思います。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

小学校でカメラを向けたときの子供たちの笑顔です。その子たちと一緒に遊び写真を取れたことは最高の思い出になっています。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

各省庁の表敬訪問で副大臣が対応されたところがあり驚きました。挨拶の言葉の中でCSAの活動が大変評価され感謝されていることを感じました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

スケジュールは特に問題ないと思います。個人ではなかなか訪問できないラオスがメインとなりましたが地元の方との触れ合いが多くあり、とてもよかったと思います。また、ラオス・タイの日本大使館訪問もあり二度と入館することは無いと思いしっかり見させて頂きました。国によってセキュリティーの違いにびっくりしました。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタッディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

何処へ行っても現地の方から歓迎されることから、CSAの活動はしっかり浸透しておりこれからも期待されていることを感じました。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

学校の訪問をして感じたことは、新しい学校の建設も必要と思われませんが、初期に建設された学校では老朽化が進んでおり雨漏りなどが酷いということで、今後は補修への支援が必要ではないかと感じました。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

CSAの視察ツアーへは同じ組合からではなく、参加したことのないところからも募集してもっと活動内容を広める必要があるのではないかと思います。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がいいですか。

これからも継続していただき、もっと若い方たちにも参加できる機会を与えて貰えるとよいと思います。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

ツアー中に組織の情報交換はあまりありませんでしたが、組織を超えた交流を出来たことはこれからの活動に生かしていけるとと思います。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがですか

今回のチームは最高だったと思います。日替わりの役割分担を実施したことは、ただ参加するだけでなく自覚が出てよいと思います。団長になった日には挨拶文を皆さんいろいろ考えたと思います。通訳の方も困るなど、時々ハプニングもあり日々笑いの絶えないツアーだったと思います。

## 佐 崎 吉 宏 (基幹労連・三菱重工労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

送った救援衣類が現地の人々に役立っていることを確認できたこと。(昨年、ラオス北部では、気温が低かったこともあり、特に救援衣類については助かったとのこと)

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

小学校を訪問して支援を必要とする村の人々は、明るく・皆が協力し合って頑張っていこうということが伺え、CSAの自立支援型の活動を改めて理解出来た。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

CSAの活動は、現地カウンターパートで高く評価され、今後も継続した活動を期待されていた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

訪問先の選定については良かったと思うが、1日のスケジュールがタイトな日もあり、車で村の小学校へ行く際、凸凹の悪路を車の追い越しをしながらの移動となり、少し危険を感じたので、時間配分も含め検討するところがあると感じた。

## 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

CSAの活動は、各省庁で高く評価され、現地の人々からも大変感謝されていることを感じた。

### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

従来の救援衣類を送る運動と自立支援型の活動を継続し、各省庁への訪問において保健事業のお話を伺い、医療関係の支援もする必要があるのではないかと感じた。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

CSAの活動の目的や実績を職場に認識・理解をいただくため、PRの工夫が必要であると思う。

## 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

### 1) これからも続けた方がいいですか。

一人でも多くの方が現地を視察し、活動の必要性を理解することが重要であることから継続する必要あり。

### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

他単組の人と交流するなかで、新たな情報収集・意見交換が出来たことは自身の収穫となった。

### 3) チームの運営の仕方はいかがですか

現地では、訪問先毎に団長・記録者・写真係の担当を平等に配置したことで、適度な責任感が持てて良かったと思う。

## 三 輪 明 洋 (基幹労連・IHI労働組合連合会)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

救援衣類を送る活動の重要性を、現地の方々の声を聴き、接することで実感できたこと。また、ラオスの小学校では、当単組の支部から送られた衣類が確実に届けられていることを確認できたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

ラオスの子供たちの屈託の無い笑顔や高校生の勤勉なところに心打たれました。そして、ラオスでは学校建設や衣類の援助がまだまだ必要であることが理解できました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

訪問する先々で歓迎や感謝の言葉を受け、活動の意義、継続の必要性を感じ、CSAの活動への評価が高いことを実感しました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

6泊7日の日程は丁度良く、小学校訪問や高校の寮への訪問など、現地の状況を見ることができ大変よかったです。タイの山間部の状況も見てみたかったです。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

行政だけではなく、地方の村の方々にも理解されている活動に対し敬意を表すると共に、加盟単組としての役割を実感しました。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

まだまだ学校の建設、特に今回話のあった中学校の建設や医療機関への支援も必要ではないでしょうか。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

単組における視察の報告や、その体験を活かした取り組みの改善が必要と感じます。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

継続することの意義はあると思います。当労組でも一人でも多く今後も参加させていただきたいと考えています。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

他産別の方々と交流することで見識も広がり、大変有意義な経験をさせていただいた事に感謝いたします。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

日々役割があったことで緊張感もあり、会話や仲間に対する関心度が増え良かったと思います。

## 山 中 貴 雄（基幹労連・三井造船労働組合連合会 東京地方支部）

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・ 救援衣類を倉庫等で確認できたことはとてもよかったと思います。
- ・ ラオスの小学生の笑顔やタイ サンティパープ高校の生徒の笑顔を間近でみて、自分自身なにか気持ち新たにがんばろうという気持ちになりました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

- ・ 一般的に経済成長していくには一定の段階・ステップがあるという認識だったので、ラオスで携帯電話が案外というか、普通に普及しているのは驚きました。道路等インフラ面の整備も未だ未だという国で、ちぐはぐな印象を受けました。
- ・ 日本のような先進国になるのがいいことなのか？ ラオスの人たちの表情や生活の一部をかいまみて、深く考えさせられました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

対応していただいた方々から感謝されていると思います。これからも活動を維持していけば、評価・信頼感が積み重なると思います。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

訪問先としては、よかったと思います。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

意義深いものだと感じた。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

困難かもしれませんが、ソフト面での貢献のフェーズに入っていくべきだと考える。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

姉妹都市交流の一貫としての高校教育・文化交流など諸々やり方はあるかと思っています。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がいいですか。

続けたほうが良い。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

同じ上部団体の組織参加の方々のみならず、違う業態の会社の方々とも知りあえて、諸々話しができて、楽しかったですし、得るところも多かったです。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

役割分担がきっちり決まっていて、運営の仕方としてはよかったです。

## 山 崎 友 美 (JAM・リケン労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

衣類を送る活動は、通常であれば集める・仕分け・箱詰め・発送までですが、その先を見ることが出来たことです。

今後は着荷側で作業を行う方たちにとって、少しでもやり易くなる様に今まで以上にきちんと仕分けを行いたいと思います。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

小学校の生徒たちの笑顔です。

物は確実に足りてないのに笑顔はたくさん溢れていて、物があること自体が幸せなことではないと改めて気付きました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

行く先々でとても歓迎を受けたことから、高い評価を受けていると感じました。中でもサンティパープ高校では、生徒の数名が渡邊事務局長にMs. Hinako〜と声を掛けており、とても慕われているんだと感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

無駄のない適切なスケジュールだったと思います。

ただ、地雷撤去関係のNGOを訪問できなかったことが心残りです。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

ラオスやタイの省庁でもお話しがりましたが、CSAの活動は単に支援だけでなく友好の架け橋にもなっていると感じました。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

現地の方のお話しにもありましたが、小学校数や老朽化している校舎の実態を確認し、小学校が足りているのであれば、中学校建設をメインに変えてもいいのではないかと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

出来るだけ多くの人にCSAの考え方や活動を理解してもらうことが必要だと思います。

限られた人しか参加できないワーキングスタディーツアーに参加した人たちが、参加後にも何か活動の機会があれば、参加した人にとってもしていない人にとってもCSAがより身近に感じられ参加・協働の意欲が湧くのではないかと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

ずっと続けてほしいです。

自分たちが行っている活動の先がわかるという機会は本当に貴重だと思います。先のことになると、もっと良くすることを自然と考えるようになるので、より良い活動を行うためにも是非継続してもらい、1人でも多くの方に参加していただきたいです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

何に置いても先輩のみなさんからたくさん勉強させてもらいました。

産別や業種の異なる方たちと組合活動についての心構えだけでなく規約の違い等もお話しが出来て自分の組合をいつもと違った角度から見る事が出来たように思います。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

とても良かったです。

日替わりで団長・記録・写真撮影を分担した事はチームワークの向上に繋がったと思います。団長として挨拶をさせて頂いたことは貴重な経験となりました。

他の方たちの挨拶や写真撮影のポイントなども見れたので、今後の活動に活かしたいと思います。